

「3つの点に気をつけて、常に自分の言葉で説明する」 私たちの外部資金獲得術！！

四国自然史科学研究センター
センター長 谷地森秀二

活動費を獲得するために心がけていること

四国自然史科学研究センターでは、四国地域を対象にして自然史科学の現状、また現状に至った経緯を調査・研究し、得られた知見を記録して後世に残す活動を展開しています。

活動資金は、環境省や林野庁など国の機関、県および市町村行政などからの調査委託事業の受託、行政補助金や民間助成金へ企画申請、会費、寄付金などにより獲得しています。活動費を獲得するためにいつも心がけていることは、「活動の目的」、「目的を達するために自分たちに不足している事柄」、「活動によって得られる成果」の3点です。これらについては、常に自分の言葉で説明できるようにも気を付けています。

行政補助金や民間助成金を獲得するうえで気を付けていることとしては、更にいくつか挙げられます。それは、「出資先の趣旨を正しく理解する」、「申請する企画と出資先の趣旨との整合性」の2点です。

これらをご理解いただいたうえで、当センターが過去に資金獲得に成功した事例を以下に紹介します。参考になれば幸いです。

巡回展「高知県の環境問題」の事例紹介

○獲得した補助金

「平成21年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金」

参考：高知県ホームページ <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030101/yutaka.html>

○獲得した額

500,000円



○申請時の説明内容

●事業名

巡回展「高知県の環境問題」

●事業目的

高知県における環境問題の現状と課題について、多くの県民ならびに来県者に普及啓発する。

●事業内容

全国生涯学習フォーラム高知県大会の環境分野会場、高知県庁 1 階ロビーおよびソールを会場に、現在の高知県における環境問題の現状と課題について、さまざまな分野の専門家と連携をはかりながら、実物資料である標本やレプリカ、調査観察機材などを用いて紹介する環境学習活動を、移動博物館形式で開催する。

●到達目標

展示を見た見学者が「高知県の環境ってね！」と、友人知人に概略を紹介できるようにする。

●事業目的の妥当性

会場として全国生涯学習フォーラム高知県大会の環境分野会場と高知県庁、ソールを設定することで、多くの県民および他県からの来場者に情報を提供することができる。事業を進めるにあたり、「循環型社会への取り組み」に則り、購入する消耗品は可能な限りリサイクル商品を購入し、展示資材も新規購入を控え、借用等でまかなう。標本を作製するにあたり、通常廃棄される部分も学術研究に供するよう多くの研究者と綿密に連絡を取り合うようにする。

紹介する分野は、気象・森林・河川・農地・沿岸・外洋・哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・昆虫類・海水魚類・淡水魚類・昆虫以外の無脊椎動物・植物・菌類・地質・化石ほか 20 分野程度とし、高知県のさまざまな環境問題を網羅できるようにする。環境問題を紹介するにあたり、多くの県民に情報を正確にかつ詳細に提供し、より深く理解をしてもらうために、展示物は標本や調査観察機材などの一次資料を多用して構成する。

広範な分野の環境問題を紹介する本事業は、高知県環境基本計画で対象としている「自然環境を守る取組」に合致している。また、県内数箇所で開催を行うことで「環境学習の推進とネットワークづくり」に貢献できるものとする。

●選択した手法の合理性

高知県では降雨状況の変化、管理が行き届かない人工林や耕作放棄地の増加、河川の瀬切れ問題、野生生物の絶滅など多種多様な環境問題が生じている。しかしながら、それらの事象を網羅的に紹介する活動はあまり行われておらず、その役割を担う自然史博物館的な施設も本県には整備されていない。そのため県民の多くはその現状について網羅的に学習する機会は多くない。広範な分野の環境問題を紹介する本事業は、高知の抱えている環境問題を広く県民に啓発することができ、県民一人ひとりがそれらの問題に対して、自分がどのように関わるべきなのかを考える機会を提供できる。他分野の環境問題を紹介するにあたり、大きな障害は紹介する内容の基礎情報を容易には収集できないことである。しかしながら、当センターは H15 年 4 月に設立以来、

他分野の研究者や活動家と継続的に連携活動を進めてきており、さまざまな情報の集積と他団体とのネットワークを形成している。

本事業では、県民一人ひとりが当事者となっている環境問題について、これら集積した情報を用いて広く県民に紹介する。これは、きわめて公益性の高い事業であると考ええる。

●事業の効果度

高知県の環境問題を網羅的に紹介する本事業は、高知県の現状を広く県民に普及啓発することができ、県民一人ひとりが高知県の環境問題に対して、自分がどのように関わるべきなのかを考える機会を提供できる。

今回用いる手法は、従来の写真や解説パネルだけで構成したものと異なり、生物の実物資料やレプリカ、調査観察機材などを多用するもので、問題の理解促進と興味喚起を図れるものと考ええる。

●地域住民の参加及び協働

設定した3会場は県内外から多くの来場者が見込まれるので、広く啓発ができるものと考ええる。さまざまな環境問題を網羅的に紹介することで、他分野への興味を喚起することが見込まれる。当センターが培った人材ネットワークを活用することにより、多くの分野に関して情報と資料を活用することが可能と考える。

●関係者との合意形成、推進体制

本活動については、平成20年11月より準備を始めており、すでに環境の杜こうち、黒潮生物研究所、複数の土佐生物学会員との間で、紹介する分野、その内容と展示資料についての打合せが進んでいる。

会場の確保については、関係行政機関との調整が必要であるが、これまで当センターが行ってきた展示活動の経験と実績から、十分に可能であると考ええる。

会計管理は、当センターの会計管理担当職員がおこなう。

●経費積算

区 分	予算額 (千円)	積 算 根 拠 (円)			
報償費	160	展示作業日当	@	8,000 × 20 人日	= 160,000
旅費	78	ガソリン代	@	130 × 600 0	= 78,000
需用費 (消耗品)	206	プロッターインク			
		PFI-102MBK	@	6,888 × 4 個	= 27,552
		PFI-102BK	@	6,090 × 2 個	= 12,180
		PFI-102C	@	6,090 × 2 個	= 12,180
		PFI-102M	@	6,090 × 2 個	= 12,180

		PFI-102Y	@	6,090	×	2 個	=	12,180
		感光体ユニット	@	8,925	×	2 個	=	17,850
		ロール紙	@	6,500	×	3 本	=	19,500
		プリンタートナー	@	24,780	×	2 セット	=	49,560
		コピー用紙 (A3)	@	810	×	1 束	=	810
		コピー用紙 (A4)	@	365	×	1 束	=	365
		コマンドタブ	@	998	×	11 袋	=	10,978
		ハレパネ (A2)	@	9,900	×	3 箱	=	29,700
使用料及び 賃借料	65	レンタルトラック	@	16,065	×	4 回	=	64,260
計	509							

四国自然史科学研究センター のホームページ <http://www.lutra.jp/>